

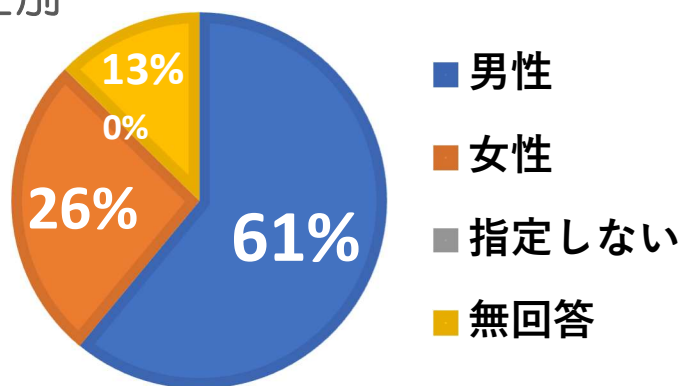
令和 7 年度 森林動物研究センターシンポジウム — 開催報告 —

1) 受付人数 440名 (兵庫県内 113名)

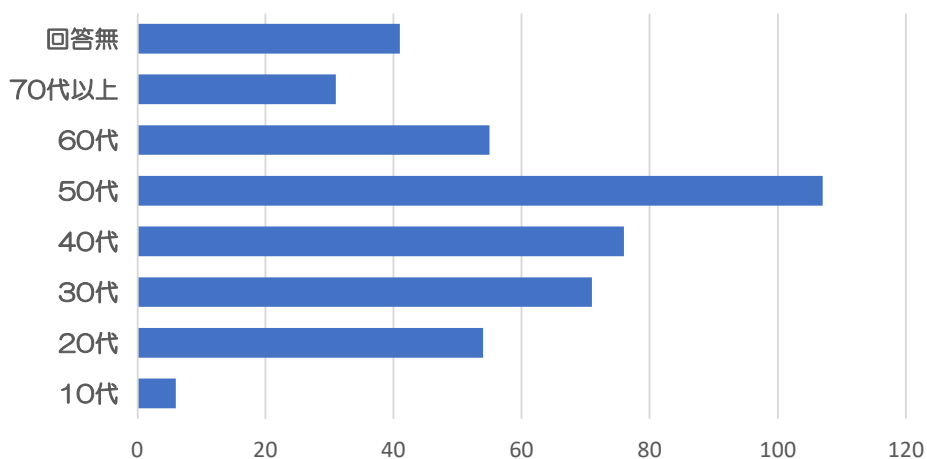
当日の最大視聴者は 227 人です。

2) 申込詳細

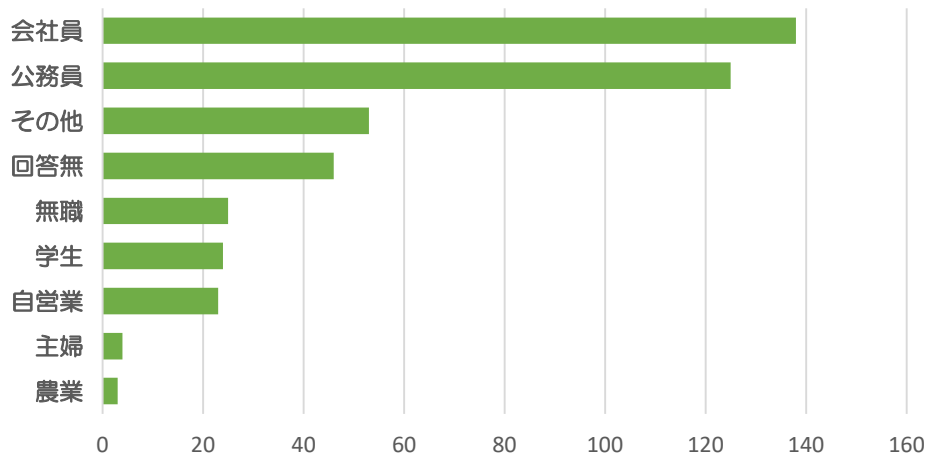
性別



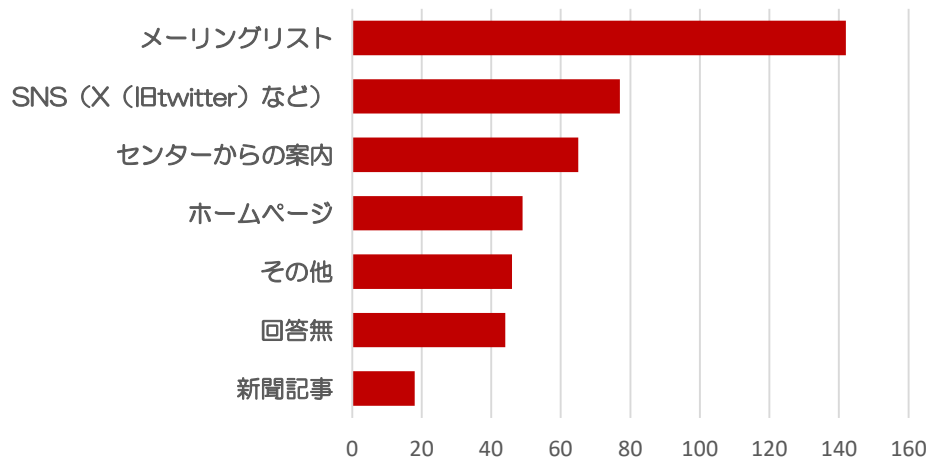
年齢構成



お仕事



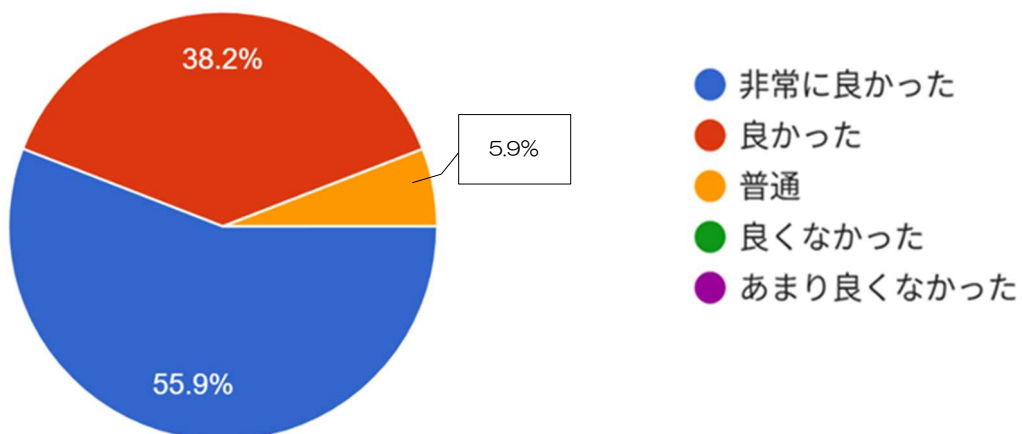
シンポジウムをどのように知りましたか



3) アンケートについて

34名の回答をいただきました。

シンポジウムの全体評価



研究発表へのコメント（抜粋）

① 都市に侵出する野生動物たち

- 実際に家屋侵入や交通事故が発生した場所と、今回調べた結果に関連があるのか、ぜひ続けていただきたいなと思いました。

特にアライグマ・ハクビシンについては、持ち主の分からない廃屋を根城として繁殖し、数を増やしていくと言われていますが、科学的・客観的な根拠を示しているデータは少ないように思います。

- 農地の林縁部周辺と住宅地周辺での出没ケースの解説が興味深かった。市街地（住宅集中地域）への出没問題はこれから注目されると思う。千葉県でも課題。千葉市等でも河川及び河川周辺のヤブ等を侵入経路として市街地に突発的なイノシシの出没が発生（JR 千葉駅前～3 名ケガ）しているが、供給源の上流域での捕獲強化が市街地出没のリスクを軽減している実績（千葉市イノシシ集中捕獲事業）がある。恐らく、他の地域でも（スケールを調整しつつ）応用できる考え方だと思う。

- 兵庫県は南北に長く、海に面した都市部を含んでいる。中間山地での野生動物管理はこれまでも度々学んできたが、都市部における各獣種による侵出について、具体的データをもとに分かりやすく解説されていて良かった。能性があるということが分かりました。

② 野生動物オスの長距離移動 — バイオロギング GPS で見えた長距離移動

- 居住している兵庫県において、野生生物の移動に関する報告を聞くことができ良かった。個体群での遺伝的多様性にどの程度寄与しているのかが分かっていたので勉強になった。

- 本来の行動として、県境を越えるくらいの移動をするデータというのは非常に興味深かったです。北海道は海に囲まれてはおりますが、道内の離島には野生動物が海を渡って生息する事例もあり、野生動物のあるべき姿を改めて確認・データをとることにより、見えることがあるのかと感じました。

- 管理のためには都道府県をこえた広域行政による調査・研究が必要と理解しました。野生動物の最新の情報をありがとうございます。

③ クマは繁殖力が弱いてホント？

- とても分かりやすく繁殖特性、また現在の兵庫県のツキノワグマの繁殖力は弱くないと評価できるデータ解析について教えていただき勉強になりました。繁殖力が高まっている状況が全国の個体群ユニット単位などではどうなのか、横山先生のお話にあった捕獲個体の解剖によるデータ蓄積で解明できる（すでにされている？）といったあたり関心事です。
- 改めてクマの生態をすることができてよかった。700 頭に対して 100 頭が増えるとなれば、死亡する個体もあるとしてもかなりのペースで増えていくことになる。頭数管理の必要性を感じた。
- クマが冬眠中に出産・授乳したり長期間着床遅延することを初めて知り驚いた。

④ クマ出没対応体制のちがい・その影響

- 行政の体制について、体系的に調べ比較したものを聞く機会を持てて大変勉強になった。自身の希望としては、野生鳥獣の対策にかかる業務を担いたいので今後もあきらめずに希望をしていきたいと思えた。
- 令和のクマ騒動によって、人材配置の必要性が叫ばれるようになったが、形だけの話ではなく、知識と技能を兼ね備え、かつ地域の人々から頼りにされる人材の育成が、やがては集落の幸福をも創り出すということが、具体的にイメージできた。このような教育に対して、政府がきちりと経済的にも制度的にも取り組むよう、声を挙げ続けなければならないと考える。
- クマに関する体制整備は他の獣種とは違って人身被害のリスクが高いので特徴的だと思う。緊急銃猟等の制度との関係も今後あり方の研究は必だろろうと思った。

4) シンポジウムで今後取り上げて欲しいテーマ

- 野生動物の個体数推定について、生態学に関わったことのない一般の人は簡単に出来ることだと思っているようです。このシンポジウムは全く関心のない一般の人というよりは、野生動物に関心がある、または何らかの関わりがある人の参加が多いのかなと想像するのですが、もし調査や研究といったことに関しては知らない層の参加もそれなりにあるようでしたら、「野生動物の数を推定する」ことの難しさや、こういった方法で調査・推定されているといったことをご紹介いただくと嬉しく思います。

クマの個体数管理の難しさの根底にある個体数把握の話など今日のお話でも随所に関係する話題があったのですが、R7年のクマ大量出没問題に多くの国民が意識を向けた中で、ベースとなるこの点の理解の差を感じる事がよくありました。林名誉所長の講評をお聞きして、こういった野生動物管理のベースとなるような話についての一般の人（マスコミ含む）との認識の差を埋めるようなテーマも、今後一般向けのシンポジウムで取り上げていただけるとありがたいなと感じました。

- 個人的にはあまり関心はないが、行政からの要望でシカ、クマ以外の個体数推定についてはよく問われる。アライグマ対策の現状最前線。人材やコストといったリソースは有限だとすると対策についても優先順位をつけざるを得ないと考えているが、かつて議論されたと思うが農村計画のあり方（地域計画含む）の最前線を知りたい。

5) その他、ご意見ご感想

- 生態学の知識がそんなでない一般の人間（私）でも、人間と動物との間に軋轢が生じたときにどのようなデータが必要か、という話はひじょうに興味深く、面白かったです。TVで、兵庫県が捕獲時のデータを蓄積して地域の適正個体数を推定し、クマの個体数管理に成功しているという話を聞いてから、先進事例としてお話を聞きたいと思っていました。このような機会をいただけてありがたく存じます。

- わからないことだらけですが、非常に興味深かったです。本日は非常に勉強になりました。先生方初心者に対して丁寧なご回答ありがとうございました。やはり現場対応そして現場の生の声の積み重ねからの客観的分析からの防除計画への落とし込み。そして何より基礎自治体内のあらゆる人材を巻き込んでいく。また近隣地域との情報共有を入り口とした防除連携これが重要だと感じます。しかし「実施」となると現実是非常に困難。しかし、そこがある意味、こうした防除対策の「やり甲斐」だと強く感じました。また、人間と野生。私の場合、特定外来昆虫ですが、共生体系か何かつくる道もあつたらなあ。とただの理想論ですが。できないものかと日々実感を伴い感じています（50年100年立てばまたそうした種と他の在来種が順応していく可能性はないか？）。